



みなみっ子

31号

令和8年6月24日(水)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標

自立

協働

創造

社会科の学習の大切さについて

日本の小学校社会科の「学習指導要領」において、「これからの社会（未来の社会）」を見据えた学習がなぜ重要視されているのか、その背景と重要性のポイントを分かりやすく整理しました。一言で言えば、現代の社会科は「過去の歴史や現在の仕組みを暗記する教科」から、「予測困難な未来を生き抜く力を育てる教科」へと大きくシフトしているからです。なぜ「これからの社会」を学ぶことが重要なのか？現代の子どもたちが大人になる頃には、少子高齢化、グローバル化、AIやDX（デジタルトランスフォーメーション）の進展、気候変動など、社会がさらに激変していると予想されます。学習指導要領が「これからの社会」を強調する理由は、主に次の3点に集約されます。

1 持続可能な社会の担い手（主権者）を育てるため

社会課題を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、地域や国、世界の未来をより良くするために自ら考え、行動する態度（公民としての資質・能力）を養うことが最重要視されています。

2 正解のない問いに立ち向かう「思考力・判断力」の育成

これからの社会には、「こうすれば絶対に解決する」という単純な正解がありません（例：人口減少をどう食い止めるか、環境保護と経済発展をどう両立するか）。データを集めて分析し、多角的に考えて自分なりの納得解を導き出す力が求められます。

3 多様性を認め、協働する力を養うため

グローバル化が進むこれからの社会では、異なる文化や背景を持つ人々と協力することが不可欠です。社会科を通じて、多様な視点（立場による考え方の違い）を理解する力を育てます。

学習指導要領における「これからの社会」へのアプローチ

具体的に小学校の授業では、以下のような形で「これからの社会」を意識した学習が組み込まれています。

3・4年生（地域社会）：地域の伝統や産業、安全（消防・警察など）を守る人々の工夫を学びつつ、「これからの地域をどう維持していくか」「自分たちに何ができるか」という未来の視点を持ち始めます。

5年生（国土と産業）：我が国の食料生産や工業、情報化社会を学びます。ここでは「これからの食料生産の課題と未来」「これからの工業と環境問題」など、まさに未来の産業のあり方が中心テーマになります。

6年生（歴史・政治・国際）：歴史を単なる過去の出来事として終わらせず、「先人が課題をどう乗り越えてきたか」を学び、それを「これからの日本の政治や国際社会のあり方」を考える土台にします。

授業づくりのキーワード：「社会的な見方・考え方」

単に知識を覚えるのではなく、「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象の相互の関連性」などに着目して社会をとらえる力です。このレンズを身に付けることで、子どもたちは大人になっても、変化し続ける「これからの社会」を生き抜くことができます。

暗記から「未来の創造」へ：小学校社会科が変わる理由と学習のカたち

現代の社会科は、単なる知識の暗記から、少子高齢化やAIの進展など「予測困難な未来」を生き抜く力を育てる教科へと進化しています。持続可能な社会を自ら創る「主権者」の育成を柱とした、新しい学習の狙いと実践を解説します。

なぜ「これからの社会」を学ぶのか？（3つの柱）

持続可能な社会の担い手の育成



社会課題を自分事として捉え、より良い未来のために自ら考え行動する態度を養います。

「正解のない問い」に立ち向かう力



データを分析し、環境と経済の両立など複雑な問題に対し自分なりの納得解を導き出します。

多様性の理解と協働



グローバル化が進む中で、異なる背景を持つ人々と協力するための多角的な視点を育てます。

学年別：未来を見据えた学習アプローチ

【3・4年生】地域社会の維持と未来



【3・4年生】地域社会の維持と未来
地域の伝統や安全を守る工夫を学び、「これからの地域をどう維持するか」を考えます。

【5年生】国土の産業と環境の未来



【5年生】国土の産業と環境の未来
食料生産や工業の課題を通じ、持続可能な産業のあり方をテーマに学習します。

【6年生】歴史・政治を未来の土台に



【6年生】歴史・政治を未来の土台に
先人が課題を乗り越えた歴史を学び、これからの日本や国際社会のあり方を構想します。